

Immediate Press Release 2015.08.04

## 鈴木理策写真展 意識の流れ Risaku Suzuki Stream of consciousness

謹啓 早春の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、東京オペラシティアートギャラリーの展覧会活動に対して、格別なご高配、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当館では、2015年7月18日[土]より9月23日[水・祝]で、「鈴木理策写真展 意識の流れ」を開催致します。

鈴木理策（1963年和歌山県生まれ）は、1980年代後半から写真を媒体に創作活動をはじめました。1998年には故郷の熊野をテーマに初の写真集『KUMANO』を、翌年には『Piles of Time』を上梓、聖地へ向かう道程がロードムービーのような連続写真の手法で収められるという、物語性を孕んだ新たな表現が評価され2000年に第25回木村伊兵衛写真賞を受賞しました。その後も2006年にニューヨーク、2011年にチューリッヒでの個展を開催するなど、国際的に活動の場を広げています。

鈴木はライフワークともいえる熊野での撮影とともに南仏のサント・ヴィクトワール山、セザンヌのアトリエ、桜、雪といった多様な対象を異なるアプローチでとらえていますが、一貫してうかがえるのは写真というメディアへの深い探求と「見ること」への問題意識です。

本展では鈴木の新作および未発表作を中心に、写真作品約100点と映像作品3点を展示します。タイトルの「意識の流れ」は「見るという行為に身をゆだねると、とりとめのない記憶やさまざまな意識が浮かんできて、やがてひとつのうねりのような感情をもたらすことがある」という鈴木自身の経験に基づいてつけられました。鈴木の見た時間を追体験すること、それによって私たちは純粋に「見ること」へと誘われるでしょう。


本展覧会の概要と見どころをご紹介しますので、「鈴木理策写真展 意識の流れ」を貴媒体上で是非ご紹介いただきたく、周知・告知活動にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

### 【開催概要】

- 展覧会名： 鈴木理策写真展 意識の流れ Risaku Suzuki Stream of consciousness  
 会期： 2015年7月18日[土] — 9月23日[水・祝]  
 会場： 東京オペラシティ アートギャラリー  
 開館時間： 11:00 — 19:00（金・土は20:00まで／最終入場は閉館の30分前まで）  
 休館日： 月曜日（祝休日の場合は翌火曜日、ただし9月22日は開館）、8月2日[日]（全館休館日）  
 入場料： 一般1,200（1,000）円／大・高生800（600）円／中学生以下無料

- \* 同時開催「収蔵品展052 水につながる 寺田コレクションの水彩画」、「project N 61 西村有」の入場料を含みます。
- \* 収蔵品展入場券200円（project Nを含む／割引無し）もあり。
- \*（ ）内は15名以上の団体料金。
- \* 障害者手帳をお持ちの方および付添1名は無料。
- \* 割引の併用および入場料の払い戻しはできません。

- お問合せ： 03-5777-8600（ハローダイヤル）  
 ウェブサイト： <http://www.operacity.jp/ag/>  <https://www.facebook.com/tocag>  
 主催： 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団  
 特別協賛： ジャパンリアルエステイト投資法人  
 協賛： 株式会社資生堂  
 協力： 株式会社熊野新聞社、株式会社カシマ、株式会社KANRI、ギャラリー小柳、ゼロプラス、株式会社ニコン、フォト・ギャラリー・インターナショナル、フォトグラファーズ・ラボラトリー

■「鈴木理策写真展 意識の流れ」リリースに関するお問い合わせ  
 東京オペラシティ アートギャラリー 【展覧会担当】佐山 【広報担当】吉田  
 Tel:03-5353-0756 / Fax:03-5353-0776 / Email: ag-press@toccf.com

## 1. 約8年ぶりとなる東京での大規模個展

2007年に東京都写真美術館で開催された個展「熊野、雪、桜」から約8年。鈴木はライフワークともいえる熊野での撮影を継続し、雪、桜のシリーズも制作を続けてきました。本展はこれらの新作・近作に、新シリーズ「水鏡」「Étude」を加え構成されています。

近年、鈴木は「『見るということ』そのものを提示したい」と語っているように、写真の特性と視覚の問題に関心を向けています。「何が写っているか」を示すだけでなく、「見るという経験とは何か」を問いかける装置として写真をとらえ、写真表現の可能性に向かう鈴木の作品は、私たちに清新な視覚体験をもたらしてくれるにちがいありません。



《SAKURA 10, 4-45》2010年

## 2. カメラ・視覚・時間

鈴木が使用するのは8×10インチフィルムを使用する大型カメラです。フィルムの大きさとそこに記録できる情報量は比例するため、大判フィルムで撮影された風景は豊かな細部に満ちています。それらは日本国内で手に入る印画紙の最大幅まで引き伸ばされることで、写真家が見ていた光景がそのまま展示室に持ち込まれたかのような印象を与えます。鈴木が「見た」時間と、作品の前に立つ人の「見る」時間が重なる時、実際にその風景を見ているのとも、「写真」を見ていることとも異なる不思議な感覚へと誘われます。



《水鏡14, WM-61》2014年

## 3. 未発表作、新作を含め約100点、映像作品も公開

鈴木は展示や写真集の構成を自ら手がけることで知られています。特にシークエンス手法で構成した写真集『KUMANO』『PILES OF TIME』は高く評価され、2000年に第25回木村伊兵衛写真賞を授賞しました。また2007年の「熊野、雪、桜」展では壁面構成、照明、壁と床の色などの全てに鈴木のアイディアが反映され、ほの暗い熊野の光景から白くまばゆい雪と桜の作品へと広がる展示が話題となりました。

本展の構成も鈴木自身により行われています。ギャラリー1では熊野で撮影された新作「海と山のあいだ」が連続的に展開し、ギャラリー2では「水鏡」「White」「SAKURA」「Étude」の4つのシリーズが響き合います。ひとつの経験をもたらす場として展覧会を考えている鈴木にとって、展示構成も作品と言えます。デジタルカメラで撮影された3点の映像作品と写真作品の関係性にもご注目ください。本展は写真が持つ表現性をあらためて発見し、見ることのみずみずしさを体感する機会となるでしょう。



《Étude10, F-63》2010年

## 鈴木理策 プロフィール

- 1963 和歌山県新宮市生まれ
- 1987 東京総合写真専門学校研究科修了
- 1990 初の個展「TRUE FICTION」(吉祥寺パルコギャラリー、東京)開催
- 1998 初の写真集『KUMANO』を上梓
- 2000 第25回木村伊兵衛写真賞を受賞
- 2006 第22回東川賞国内作家賞、平成18年度和歌山県文化奨励賞受賞
- 2008 日本写真協会年度賞受賞
- 2006- 東京藝術大学美術学部先端芸術表現科准教授

### [主な写真集]

- 『KUMANO』(1998 光琳社出版) 『PILES OF TIME』(1999 光琳社出版)
- 『Saskia』(2000 リトルモア) 『FIRE: FEBRUARY 6』(2002 Nazraeli Press)
- 『Mont Sainte Victoire』(2004 Nazraeli Press) 『熊野 雪 桜』(2007 淡交社)
- 『Yuki Sakura』(2008 Nazraeli Press) 『雪華図』(2012 SUPER DELUXE)
- 『White』(2012 edition nord) 『Atelier of Cézanne』(2013 Nazraeli Press) など



《海と山のあいだ 13, DK-198》2013年

all images: ©Risaku Suzuki / Courtesy of Gallery Koyanagi